

【第 23 回パラグアイ便り】



2016年日本人移住80周年記念イベント

『パラグアイ議会主催の日本人移住 80 周年式典』

日本人パラグアイ移住 80 周年となる本年は各種の式典や催しが相次いで実施されていますが、その特徴として指摘できることは、日系人団体が企画・主催するイベントだけではなく当国の政府や団体が主催する式典も多数含まれていることです。今回紹介するのは、去る5月31日にパラグアイ議会本会議場で開催された議会主催の80周年記念式典です。

本年3月20日、パラグアイ議会下院は議会宣言第397号で『日本人移住80周年およびその式典を国家関心事項とする』と決議、今回の式典はそれに基づき挙行されたものです。また本年4月19日政令第5164号で「80周年記念切手発行」も決定され、その発行式典もあわせて補助席もふくめ300名近くが参加して盛大に開催されました。



ベラスケス 議会式典での両国の国旗入場と本使挨拶

当日は、両国の国旗入場、国歌斉唱、アリエル少年による80周年記念歌独唱で式典が始まりました。引き続きパ日友好議員連盟会長ロメロ・ロア下院議員、前原弘道日本人会

連合会会長、アンヘル・ピントス国立郵便庁長官の祝辞があり、最後に本使より二つの感謝、すなわち『艱難辛苦を乗り越えて現在の安定を築いたのみならず農業はじめ各経済社会分野でパラグアイの発展に尽くされた日系人社会に対する感謝と、他方、移住者を温かく迎え入れ開拓初期から支援を惜しまなかったパラグアイ官民に対する感謝』、この二つを述べて祝辞としました。



(写真：議会作成の式典案内)

さらに、今回の議会側の好意や協力に対し、前原日本人会連合会会長と本使からベラスケス下院議長、ロメロ・ロア友好議連会長、ピントス郵便庁長官の3名に対して80周年事業実行委員会名の感謝状を手交しました。



(写真左の笠松・藤勝両氏と右のミランダ女史)

さて切手の人物像ですが、右の和服の女性はアグスティナ・ミランダ女史です。移住開始間もない 1940 年にラ・コルメナ小学校教師として赴任し、開拓初期の苦難に加え敵性国家国民として厳しい監視下にあった悲惨とも言わべき時代に日本人移住者を陰に陽に庇護し、その後生涯にわたって日系社会に寄り添った人です。「全パ日系人の母」と呼ばれた彼女については、【第 11 回パラグアイ便り】でも紹介しています。

切手の男性 2 人は、1936 年にラ・コルメナ入植地にブラジル拓殖組合の調査団を率いて乗り込んだ測量技師の笠松尚一氏と在サンパウロ総領事館拓務主任の藤勝周平氏です。その後、笠松氏は在パ日本人会連合会会長や日本商工会議所会頭を歴任されるなど生涯リーダーとして活躍され、また、藤勝氏はイタプア県の移住地を管轄する在エンカルナシオン領事館の初代領事などを歴任されるなど移住社会に深く関わりました。現在でも両氏ご家族の多くがパラグアイ社会で活躍、当日の式典にも出席されました。

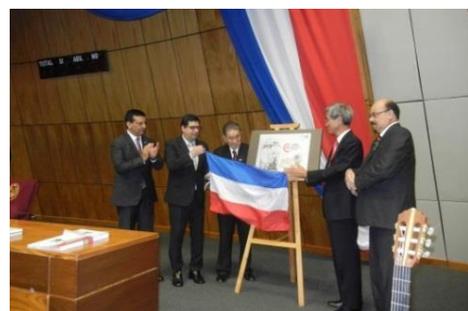
式典後半では、まず移住の歴史と今、さらに未来を示唆する 80 周年記念ビデオ(当館 HP の表紙に up しています)が大画面で紹介され、その後ニホンガッコウ学園(第 8 回パラグアイ便りで紹介)生徒による演舞、日本人会若手による日本舞踊や太鼓演奏などで盛り上がりました。



(写真：両国の文化融合を象徴した、本会議場内での催し物)

当日発表された記念切手は額面 9000 ガラニ(約 150 円)で、日系人若手画家林由紀さんの作品——両国文化の友好を象徴する「桜」と「ラパッチョ」の花の組み合わせ——が図柄に選ばれています。彼女はピラポ移住地出身の 2 世で、アスンシオン高等美術学校卒業後に日本国費留学生として筑波大学で日本画を学び、最近もパリでも個展を開くなど気鋭の画家として活躍しています。

(記念切手除幕式写真：左からロメロ・ロア友好議連会長、ベラスケス下院議長、前原連合会会長、本使、ピントス国立郵便庁長官)



議会本会議場前ロビーでは移住写真展が開かれ、移住初期の苦闘時代の写真から、次第に安定に向かい、やがて大勢の子供たちも加わった移住地での賑やかな学校や日常生活の風景写真、さらには皇族方ご訪問時の記録写真が展示されました。



(写真：議会ロビーにおける移住写真展)

また同じ議会ロビーに盛り沢山のパラグアイ料理と日本料理も並べられて、参加者一同がそれぞれの食文化を満喫しながら当日の盛大な式典は無事幕を閉じました。



(写真：議会ロビーに準備された日パ両国の料理)

この国の日系人は約一万人、人口対比でも 0.1%程度と、数字的にごく僅かですが、その存在感の大きさについては【パラグアイ便り】で繰り返し紹介してきました。

とくに、今回のように接受国の議会が移住式典を公式に主催することは他の国では考えられないことと思われ、出席した他国大使からも賞賛を受けました。

本式典開催そのものが、日系社会の当国で築き上げてきた存在感の大きさを端的に示しているといえそうです。

今回の式典は一連の 80 周年事業の一つですが、パラグアイ議会が国家事業として主催し、さらに議会 TV 局が実況中継するなど、予想を遙かに超える意義深い画期的な行事になりました。



(写真：議会ロビーでのロメロ・ロア友好議連会長夫妻と本使夫妻)

[注] パ日友好議員連盟は与野党双方のパラグアイ下院議員 26 名がメンバーであり、2014 年6月のカルテス大統領公式日本訪問に先だって結成されました。日本からの要人訪問に際しては必ず意見交換の場を設けています。

他方、日本側での日パ友好議員連盟は河村建夫衆議院議員が会長で、2014 年カルテス大統領訪日時や本年3月のロイサガ外務大臣訪日時に歓迎会を催していただきました。

(上田善久 在パラグアイ大使館 2016 年6月)